

平成 30年 10月 22 日

(あて先) 一宮市長

<申請者>

所在地 一宮市千秋町佐野 3 2 0 3

団体名 青木川ホテル育て隊

代表者 会長 京極 芳之

一宮市市民活動支援金交付申請書 (2019 年度実施)

一宮市市民活動支援金の交付を受けたいので、一宮市市民が選ぶ市民活動に対する支援に関する条例第5条の規定により、下記のとおり申請します。

記

1 事業の名称	ホテルを復活させて、環境保全の啓蒙		
2 事業の分野 〔主たる分野を一つ 選択し、○で囲ん でください。〕	保健・医療・福祉 観光の振興 環境の保全 人権・平和 子どもの健全育成 経済活動 NPO支援	社会教育 農山漁村・中山間地域振興 災害救援 国際協力 情報化社会 職業能力・雇用機会 その他()	まちづくり 文化・芸術・スポーツ 地域安全 男女共同参画 科学技術 消費者の保護
3 支援金交付申請額	201,266円		

(算出基礎)

事業に要する経費 (a)	301,900円
事業に要する経費のうち対象となる経費 (b)	301,900円
当該事業によって得られる収入 (c)	0円
支援金交付申請額※ 上限:「(b)×2/3」または「(a)-(c)」のいずれか高くない方	201,266円

※ 1円未満切捨て

4 添付書類

- (1) 一宮市市民活動支援に係る団体調書 (様式2)
- (2) 一宮市市民活動支援金申請事業に係る計画書 (様式3)
- (3) 一宮市市民活動支援金申請事業に係る収支予算書 (様式4)
- (4) 団体の規約その他これに類するもの



備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4 (片面印刷) とする。

様式2 (第5条第1号関係)

一宮市市民活動支援に係る団体調書 (2019年度実施)

団 体 名	青木川ホタル育て隊		
市内事務所の所在地	〒491-0804 一宮市千秋町佐野3203		
代表者職・氏名	会長 京極 芳之		
設立年月	2004年 4月	構成員の人数	52人(2018.4現在)
U R L	http://		
連絡先 ※この申請に関する 問合せに対応できる方	(担当者氏名) 佐藤 靖郎 (飼育担当)		
	電 話	0586-81-1376	F A X 0586-81-1376
	E-mail	g-sato@nifty.com	
団 体 の 目 的	ホタルの飼育をとおして、ホタルも生息できる環境、自然がどうあるべきかを考え、私たちの身近な自然環境を改善、保全、活用し、次の世紀を担う子供たちとともに汗を流し、自然の不思議を知り、それを大切に守り育てていくことを目的とする		
主 な 事 業 内 容	<ホタル飼育活動> ・ホタルの飼育環境の確保/整備、飼育活動、飼育方法の調査と研究 ・ホタルの幼虫放流、観賞場所の確保/整備 ・ホタル観賞会、幼虫放流会の開催 <啓蒙活動> ・ホタルの幼虫放流会、観賞会などの開催の機会を通し、環境保全の啓蒙		
主 な 活 動 の 実 績	・2004年1月より、飼育環境の整備開始。「一宮平成ホタルの会」から500匹の幼虫を譲り受け、飼育開始 ・2005年夏より、毎年ホタル観賞会を開催。 *2017年は、4日間で340名が観賞。会員延べ36名で対応。 *2018年は、水道設備の不調により幼虫が激減、昨年同様の規模で実施 観賞会5日間開催380名が来場。会員延べ42名で対応。 特養施設3か所へ出前、観賞者60名、会員延べ14名で対応 ・千秋中学校の生徒が飼育活動の幼虫放流会/観賞会場の設営に参加。 また、月例活動を通しホタルの生態、飼育と環境保全についての勉強会を実施。		
今年度予算額	324,400円	昨(2017)年度決算額	382,532円
条例第2条第3項に掲げる要件について	<input checked="" type="checkbox"/> すべて満たしている ・ <input type="checkbox"/> 一部または全部満たしていない		
市からの他の補助金等の有無	有(補助金等の名称: _____) ・ <input type="checkbox"/> 無		

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A4(片面印刷)とする。

一宮市市民活動支援事業に係る計画書 (2019年度実施)

<p>団体名</p>	<p>青木川ホタル育て隊</p>
<p>事業の名称</p>	<p>ホタルを復活させて、環境保全の啓蒙</p>
<p>事業の内容</p>	<p>(1) 実施期間 (準備期間や後処理期間も含めてください) 2019 (平成30)年4月1日～2020 (平成32)年3月31日</p> <p>(2) 実施場所 飼育・観賞場所：青木川ホタル育て隊「ホタル小屋」(千秋中学校南)及びその周辺</p> <p>(3) 受益対象者 千秋町および周辺地域の住民</p> <p>(4) 実施体制 活動会員は、千秋町内から会員を募集 (2018/4 現在 52名、会員年会費 1,000円を受領)</p> <p>(5) 具体的な内容 <飼育活動> ・ 毎日の活動：会員は、担当の曜日を決め作業 作業内容 ⇒ 幼虫/水/餌の観察、給餌、飼育水槽の水換え ・ 月例会 (原則毎月第一日曜日)：活動状況の報告/確認と集団作業 作業内容 ⇒ 幼虫の分別と飼育水槽整備、設備補修、環境整備 ・ 不定期 (必要の都度)：餌 (タニシ) の捕獲、洗浄、畜育 <幼虫放流会> ・ 4月中旬幼虫放流会を開催 (放流場所：ホタル小屋・観賞水路) ホタル小屋の隣の保育園児による幼虫放流実施。 小学校3校に放流会開催案内、自由参加。 中学生会員による幼虫の放流。 <観賞会> ・ ホタルの飛翔時期(5月下旬～6月上旬)に4～5日間程度開催 町内の保育園/幼稚園/小学校/中学校にも案内。 期間中は当番を決め、会員が観賞の誘導案内と説明を担当 (土日曜日は、安全確保のため委託の警備員を配置) ・ 要望のある老人養護施設3～4ヶ所で行前観賞会を実施</p>
<p>事業のふりかえりとその生かし方</p>	<p>月例会や総会で次の問題意識を確認しあい、改善を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 飼育幼虫の減少傾向に対する飼育環境や気象環境変化対策の研究 ・ 設備の老朽化状況の確認と対策 ⇒ (2018年は、飼育に重要な水道機器が老朽化で不調、急遽取り換えた。もっと早く対処すべきであった) ・ 餌のタニシの生息場所の環境が変わり、確保がむづかしくなっている。タニシの確保方法を調査研究。 ⇒ (農薬対策もあり、畜育設備が必要になってきた。試作整備で実験試行中) ・ 活動会員が高齢化しており、飼育活動の関与者を広めるため、参加者の年代多様化を模索中。 ⇒ (2017年度から中学生が活動に参加。2018年度は13名が参加登録。月例会や放流会、観賞会の準備作業に協力)

備考1 用紙の大きさは、日本工業規格A4 (片面印刷) とする。

備考2 ページ数は2ページまでとする。

<p>当該事業を実施する理由</p> <p>※目指す地域・社会像や、事業を実施することにより、どのような課題が解決され、どのように目指す地域・社会に近づくか等を記載してください。</p>	<p><活動の出発点> (疑問) 60年以上前、夏の風物詩であったホタルが何故いなくなったのか？」</p> <p>【目指す地域社会像】 (目的) 人間が手を加えなくても、ホタルが自然に棲める環境を整備し、保全する活動を通し、環境保全の大切さを地域全体で認識。次の世代に引き継ぐ。</p> <p>【地域課題】 (地域に限らない課題) 農薬や化成肥料、合成洗剤や合成香料の安易な多用、土に還らないごみやプラスチックの不法投棄。その結果、多くの身近な小生物が減少。しかしその影響の大きさや実態を実感する機会は限られている。</p> <p>【事業の実施による効果】 (目標) ホタルも棲める環境を還元し、ホタルを飛翔させる活動を通して、限られた場所、地域であっても、それをモデルにして環境保全の大切さを啓もうすることが狙い。 (ホタルも棲める環境＝人間にも安全で快適な環境)</p> <p><自生は未だ、道遠し。飼育幼虫の生息数減少さえ見られる。思いの外、環境の変化が早いのか？ まだまだ、勉強が足りないことを毎年痛感している></p>	
<p>費用負担について</p> <p>※受益者負担が求められるかどうか、公金で実施する理由などを記載してください。</p>	<p>【受益者負担のみで事業を行えない理由、公金で実施する理由】 「快適な農／住環境」を「ホタルも棲み／育つ環境」を通して、「環境保全の大切さを知る」ことを目指した啓蒙活動であり、特定の受益者を想定していない。 本制度の支援金を有意に活用したい。</p>	
<p>事業スケジュール</p>	<p>時期 (月)</p> <p>略通年 (7月～翌4月) 4月中旬 6～8月</p> <p>4月初旬 5月中旬 6月初旬 ～中旬</p> <p>2～3月 3～4月 10～12月 通年</p>	<p>内 容</p> <p><幼虫飼育活動> 幼虫の飼育 (生育監視、給餌、水質管理、幼虫の生育状況調査) エサ(タニシ)の捕獲／畜育管理 幼虫の放流 (放流場所：上陸羽化水槽、観賞水路) 産卵環境整備監視、産卵した卵の採取、孵化監視</p> <p><イベント：幼虫放流会、ホタル観賞会> 幼虫放流会開催案内 ⇒ 町内、保育園、小学生、中学生 ホタル観賞会開催案内 ⇒ 町内、保育園、小学校、中学校 地域住民向け観賞会の開催 (観賞場所への誘導/説明) 老人養護施設での出前観賞会開催 (持ち込み展示)</p> <p><飼育／観賞環境整備> 幼虫放流環境の整備 飼育小屋の給水/エア供給設備、 観賞水路の泥上げ、畦補修、観賞場所の草刈、樹木剪定 ヘドロ対策、飼育小屋周辺の草刈、樹木剪定 幼虫の外敵(ザリガニ、ジャンボタニシ)駆除</p>

備考1 用紙の大きさは、日本工業規格A4 (片面印刷) とする。

備考2 ページ数は2ページまでとする。

支出科目の内訳

科 目	金額 (円)	内 訳※1
	支援金算出額 (円)	
報償費		
旅費		
印刷製本、 消耗品費	100,000 円	飼育用消耗品、資材 80,000 円 (エアーストーン/チューブ、飼育水槽、石や砂、レンガ、作業具等) 事務用消耗品 20,000 円 (プリンター/トナー、印刷用紙等)
	100,000 円	
食糧費		
通信費、 手数料	97,500 円	作業委託 60,000 円 (観賞場所の樹木剪定、雑草草刈、放流水路の整備) 業務委託 30,000 円 (観賞会の土日曜日夜間警備 2 日間) 保険料 7,500 円 (ボランティア保険 50 人分負担)
	97,500 円	
備品費※2		
人件費		
使用料、 賃借料	104,400 円	飼育小屋使用料 104,400 円 (月 8,700 円×12 カ月)
	104,400 円	
その他		

※1 一部が「支援金算出額」となる場合は、その該当分のみを () 書きで再掲してください。

例) スタッフ費用 @1,000 円×5h×2 人=10,000 円 (@900 円×5h×2 人=9,000 円)

※2 備品費を計上する場合は、内訳欄に購入理由も記載してください。

備考 用紙の大きさは、日本工業規格 A 4 (片面印刷) とする。